

# 学校関係者評価報告書

愛媛県立宇和特別支援学校（知的障がい部門）

評価・提言等	提言に対する改善方策等
<p>今年度の最終評価について</p> <p>1 学習指導 日々の教育活動の充実が、子どもたちの将来の社会自立や社会参加につながる。コロナ禍前のような活発な学習活動や交流活動の充実を図ろうと努めている。 文化庁「ユニバーサル公演事業」の取組は、子どもたちが芸術に触れ合う大変良い取組である。 ICT研修を実施し、学習指導の充実と専門性の向上に努めている。研修を積んで、個々に応じた最適な学びを目指してほしい。</p> <p>2 生徒指導 集団活動の充実が図られ、これまで交流のなかった近隣高校等との交流の輪が広がっている。今後も積極的に交流の輪を広げてほしい。</p> <p>3 進路指導 今後も小・中・高等部が連携して、発達段階に応じたキャリア教育をより充実させてほしい。合理的配慮が努力義務から義務になった。子どもたちには「〇〇してください。」という発信ができる力が必要である。</p> <p>4 センターの機能 南予唯一の特別支援学校として、地域の学校に対する相談支援や研修支援などを行い、センター的機能を果たしている。市町の発達支援センターや特別支援学級とより一層連携・協力し、特別支援学校の存在意義を大きくしてほしい。</p> <p>5 学校安全 防災では、最悪の事態を想定して備えを進めている。ヒヤリハットの事例は、教職員間で情報共有をすることが大切である。</p> <p>6 働き方改革 時間外勤務は、上限45時間以内が86%であり、メリハリのある勤務実態となっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も引き続き各種研修会を実施し、児童生徒が主体的に学べる教材研究や教員の専門性の向上を図る。教職員間でお互いの実践を学び合う機会を設け、系統だった指導・支援に努める。</li> <li>・文化庁の事業は令和7年度まで続く。三部門が協力して事業を盛り上げ、子どもたちに表現することの大切さや楽しさを理解させる。</li> <li>・研修したことを積極的に授業に取り入れ、ICTを活用したより効果的な授業作りに努める。</li> <li>・児童生徒が、地域と日常的なつながりを持つことができるように、今後も高校生による出前授業や合同演奏会などの機会を積極的に設ける。</li> <li>・障がい種を越えた三部門間の交流を積極的に行い、より専門性の高い教育活動に努める。</li> <li>・現場実習や校内実習などの場を活用し、自分で伝える力や表現する力を養う。</li> <li>・研修や情報共有を通して、様々なニーズに対応する担当者の育成に努める。</li> <li>・市町の教育相談や連携協議会を通して、本校のセンター的機能の意義や役割を地域に周知し、小・中学校との連携を密にする。</li> <li>・来年度から防災に係る費用を予算化し、備蓄品の計画購入を進める。</li> <li>・避難生活に関するマニュアルの作成を行う。</li> <li>・今後必要と思われる施設・設備の改修について計画する。</li> <li>・面談等を通して、教職員の意見や要望を吸い上げながら学校運営に反映していく。</li> </ul>